



最優秀賞

raumus
竹田 真志

【作品名】
土田の民家

設計	raumus
施工	ヤマトハウス
竣工日	2021年3月20日

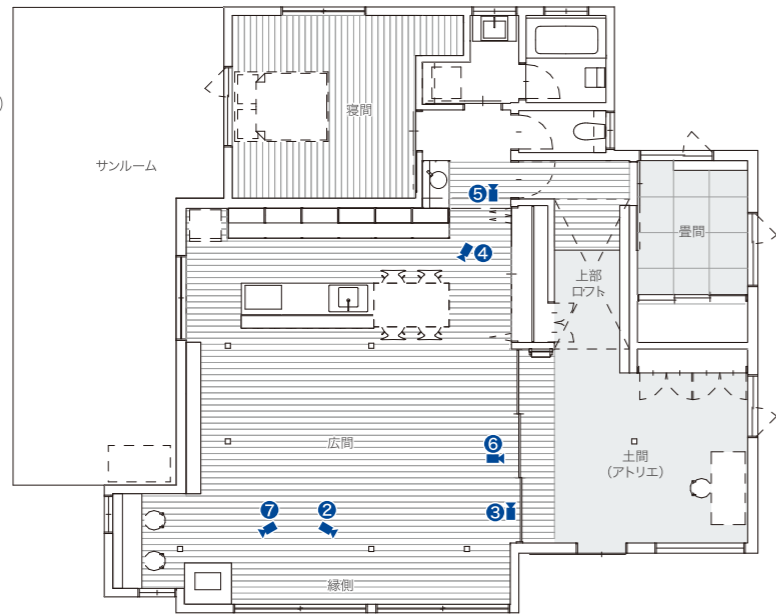
建物概要

建設地	岡山県岡山市	延床面積	125.00㎡
敷地面積	912.00㎡	構造・規模	木造平屋建

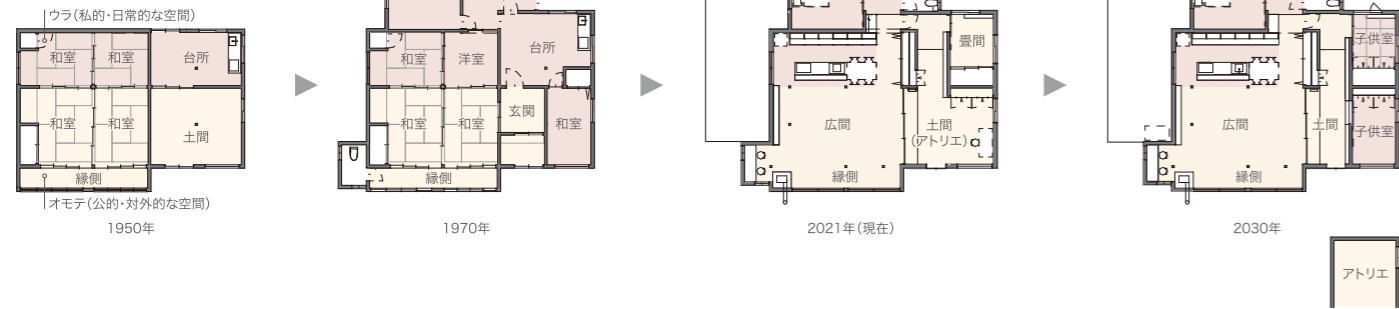
設備面の特記

厨房機器	ガスコンロ
給湯機器	給湯暖房用
冷暖房機器	エアコン・ 床暖房(ヒートポンプ式)

平面図



間取りの変遷 ダイアグラム



設計コンセプト

陶芸家と料理家の夫婦、幼い子どもたちの4人家族のための岡山市内の住宅。クライアントは新しい生活の拠点とする岡山で、茅葺き屋根の古民家を購入し改修して住むことにした。敷地周辺には同じく茅葺き屋根の上に金属板を葺き、現代まで住まれている古民家が数軒点在している。元々は農家の住まいとして作られたこの住宅は、数度の増築や改修によって少し窮屈な印象の空間になっていた。そこで地域の古民家の持つおらかな雰囲気を取り戻し、民家の在り方を継承した上で、現代的なライフスタイルに合うように大きく間取りを変更することで、古い、新しいという枠組みを超えて、現代における民家の形をこの家族を支える生活の器として蘇らせたいと考えた。

夫婦は仕事上の来客が多く、日々の生活と仕事が連続して暮らし

ていた。陶芸家である夫は、日中はアトリエで制作を行い、作品を直接見に来る来客の対応がある。妻は人を集め、大勢にご飯を振る舞う機会も多い。そこで制作や来客のスペースである土間・畳間、日中の生活スペースである広間、就寝する寝間の3つのスペースとして再構成した。土間と広間部分は3枚引戸で仕切られているが、その建具を開け放つと50畳ほどの一室空間となる。屋根形状に沿った寄棟形の天井は頂部で4m程あり、非常に大きな空間である。住宅としての機能を越えた、仕事場のようなでもあり、地域の集まりの場にもなるような自由で新しい未来の住まいのかたちを考えた。

審査委員講評

70年の時が経過した古民家の改修です。平面図だけ見れば土間アトリエの特徴を除いて特別な空間性を感じない計画にも思われますが、一度写真に目をやればその密度と豊かさに驚嘆させられます。大らかさと緻密さ、古さと新しさ、単純さと多様性、など相反する価値が絶妙なバランスで共存しています。家族の営みを感じさせてくれる家です。



写真撮影/山内 紀人



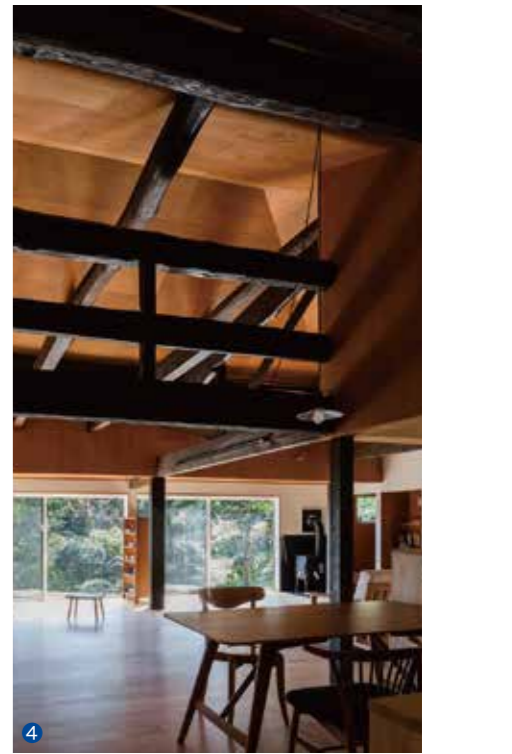
1



2



3



4



5



6



7

1 2 3 4 5 古民家の改修に際し、新旧の部位を対比させたり、同化させる方法を選んだ。既存の柱や丸太の梁など時を重ねてきたモノの存在感に対し、木やモルタル、スチールなど様々な種類の素材を付加することで、どこまでが新しくどこまでが古いのか解らないような状態を目指した。

6 玄関と一体的に使える土間は、住宅の玄関というよりはアトリエやお店のような雰囲気のある空間である。大きな上り框はベンチとしても利用が可能で、周辺の方や友人が気軽に立ち寄れるスペースとなっている。

7 古民家の雰囲気に合う設備を使いながらも快適な温熱環境となるように計画した。